第 354 回　京都市考古資料館文化財講座／アスニー京都学講座

令和 7 年 7 月 26 日

秀吉の土木工事

―伏見城城下町の調査を中心に―

（公財）京都市埋蔵文化財研究所
松吉祐希

1．はじめに

豊臣秀吉は、清洲城の三日普請や墨俣一夜城の逸話をはじめ、水攻めを行うため備中高松城の周囲に 12 日ほどで堤防を築造する、天下統一に向けた最後の戦である小田原攻めでは３か月ほどで石垣山城を築く等、戦において様々な土木工事を行ったことが知られている。京の都でも秀吉は、聚楽第の築城・破却、寺町の造営、天正地割、御土居の築造といった京都の都市改造など、数々の土木工事を行った。

今回の講座では、伏見城とその城下町の発掘調査から、秀吉の行った土木工事（普請）の実態に迫りたい。

2．普請とは

築城には、城を築く場所の選地、城の配置を決め設計する縄張り、実際の工事である普請と作事の工程がある。普請は土木工事のことで、土塁の築造や堀の掘削、造成、石垣等の築造にあたる。作事は建築工事のことで、天守や櫓、門等の建築にあたる。

3．伏見城の変遷

天正 18 年（1590）に天下統一を果たした秀吉は、翌年に関白の座を豊臣秀次に譲る。文禄元年（1592）３月には、朝鮮出兵を始め（文禄の役）、同年８月より伏見指月に「御隠居所」「伏見御屋敷」の造営を開始した。伏見城のはじまりである。【第１期】

その後、文禄３年（1594）には隠居所としての伏見「屋敷」を、天守や石垣、惣構の存在する伏見「城」として拠点化するための普請を開始した。そして文禄４年（1595）、秀次が高野山にて自害すると、秀吉は聚楽第を破却、伏見城へ資材を移動させている。なお、秀次存命時は聚楽第と伏見城城下町が並立していたが、聚楽第破却後は大名屋敷が伏見へと移転することから（福島 2010）、この頃には伏見城城下町の普請も行われていたことが分かる。【第２期】

写真１　現在の伏見桃山城

文禄５年（1596）閏７月 12 日、慶長の大地震が起こり伏見城は倒壊するも、14 日には秀吉は木幡山（伏見山）に縄張りを開始した。10 月には本丸が完成、城下町も改修された【第３期】。慶長２年（1597）１月には慶長の役が始まり、５月に秀吉は秀頼と共に伏見城へ移るも、慶長３年（1598）８月、秀吉は伏見城にて死去した。慶長４年（1599）閏３月、徳川家康は向島城から伏見城西ノ丸に移ったが、慶長５年（1600）６月に家康が上杉攻めのため会津へ向かうと、その隙に石田三成率いる西軍が挙兵し伏見城を攻め落とした。この関ヶ原前哨戦の際、伏見城を守っていた鳥居元忠は城内や城に近い武家屋敷に火をつけている。また西軍が攻め込んだ際にも城や城下町が焼けたとされる。

同年（1600）９月、関ヶ原の戦いに勝利した家康は、慶長６年（1601）には伏見城の改修を行う。あわせて大名屋敷の改修も行われた。【第４期】

慶長 10 年（1605）に家康が江戸へ移ると、伏見城は番衆が置かれ在番制となる。その後、元和５～６年（1619～1620）頃から伏見城の破却が本格化した。元和９年（1623）に、家康・秀忠に続き徳川家光が伏見城において征夷大将軍の宣下を受けた後、伏見城は完全に破却された。

伏見城廃城後、周辺は田畑となり、江戸時代前期には伏見城跡地や大名屋敷跡地に桃が植えられ、桃の名所となった。明治 45 年（1912）に明治天皇が崩御すると、伏見城本丸跡に伏見桃山陵が造られた。昭和 39 年（1964）には、伏見城跡に伏見桃山城キャッスルランドが開園し、園内に伏見桃山城模擬天守が建てられた。［写真１］

4．伏見城と城下町の発掘調査からみた普請　【図１】

桃山丘陵に位置する伏見城の普請には、主に伏見城及び城下町の造成、石垣の構築、惣構（土塁と堀）の築造などがあったとみられる。

①　伏見城（石垣の構築）

調査１　**北堀公園**　［写真２］

1988 年に行われた調査で、伏見城の北堀に位置する（伏見城

写真２　伏見城北堀の石垣（伏見城研究会編 1989 より）

研究会編 1989)。調査では北堀南斜面の石垣を検出した。検出した石垣は、東西 40m 以上に及び、高さは約４m で、８段ほどが残存していた。石材は花崗岩の自然石で、裏込めはなく基盤層に直接貼り付けて積まれていた。このような特徴や構築位置から、伏見城築造当初（第３期）の石垣と推定されている。

②　惣構（土塁の構築）

調査２　桃山町正宗の調査（JR 奈良線）　[図２～４]

2017 年度に行われた調査で、伏見城を囲む惣構の北辺に位置する（中谷 2017)。調査では、惣構の土塁断面を検出した。土塁の南北長は約 58m、高さは最大で４m である。

・土塁の構築過程

第１段階　土塁構築部分の基盤層上面を、緩やかな南下り斜面に成形する。

第２段階　整地した基盤層上面に、厚さ約 0.1mのシルトを水平に積む。

第３段階　土塁の構築土を積み上げる。斜面部の裾部に土手状の高まりを造り、これを土留めとして構築土を高く積み上げている。いくつかの小山を造り、その間を水平に盛土する。

③　城下町の造成（盛土と切土）

調査３　福島太夫北町の調査（呉竹総合支援学校）　[図５～８]

2020 年度に行われた調査で、桃山丘陵中腹の城下町に位置する（松吉 2021)。調査地には田中吉政の屋敷があったとされる。調査では、伏見城城下町の造成に伴う土手状高まり１（１区）や溝（３～６区)、造成土（１・３～７区)、造成土上面で伏見城期の塀、柱穴、土坑を検出した。また、５区では切土斜面 500 を確認した。造成土は３区で最大 3m の厚さを確認した。

・盛土の構築過程

盛土の厚さは、場所により厚薄があるものの、基本的にほぼ同様の構築方法を用いていた。工程は、おおよそ５段階に分けることができる。

第１段階　基盤層に段差をつけて、基盤層の傾斜を緩やかにする。排水のための溝を基盤面に掘削する。

第２段階　基盤層の上面に、土を水平に盛って平坦面を造る。この時、第１段階で設けた段差の、標高が高い方の端に土を盛り上げて土手状の高まりを造り、水平に盛った土の土留めとすることがある。

第３段階　第２段階で造った平坦面の上に黄橙色シルトブロックと赤褐色粘質土ブロックの土を敷く。この層の上面は平坦に仕上げず、起伏をもたせている。

第４段階　標高の高い方から低い方へ向かって斜め方向に土を入れる。この時、土手状の高まりを造り、斜めに盛った土の土留めとすることもある。なお、この際の盛土は、数種類の土を細かい単位で互層状に入れていた。

第５段階　斜めに盛った土の上面に水平に土を盛り、仕上げる。

・切土（切岸）

５区では、基盤層を切土して、比高４m以上の斜面を造り出していた。この切土により、調査地である屋敷地の西側の標高が低い区画（福島太夫町、佐竹義隆屋敷地）を形成していた。斜面は、傾斜の角度が２段階あり、上方は約 30 度、下方は約 45 度の傾斜であった。

このように調査地周辺では、基本的に標高の高い東南部に合わせるために、標高の低い西北部に盛土をすることで平坦地を造っていた。しかし、7 区では他の調査区とは異なり、北から南に向かって盛土を施していた。これは７区の北側に丹波橋通が存在することから、丹波橋通が先行して造られ、その後に大名屋敷地の造成が行われたためと推定できる。

５．おわりに

伏見城では、石垣の構築や惣構の築造、城下町の造成といった豊臣秀吉が行った普請の痕跡を確認することができた。

とくに桃山丘陵の中腹に位置する城下町では、木幡山（伏見山）の斜面地を平坦地にするために大規模な造成を行っていた。盛土および切土を行うことで、屋敷地の方形区画を造り出し、城下町を形成していた。

参考文献

中谷正和『伏見城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2017－3　公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所　2017 年

福島克彦「伏見城の機能とその破却について」『ヒストリア』第 222 号　大阪歴史学会　2010 年

伏見城研究会編『伏見城跡発掘調査報告－伏見城北堀公園整備事業に伴う事前発掘調査－』1989 年

松吉祐希『伏見城跡・福島太夫遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2021－5　公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所　2021 年

丸川義弘「伏見城の考古学的調査」『ヒストリア』第 222 号　大阪歴史学会　2010 年

森島康雄「考古學からみた伏見城・城下町」『豊臣秀吉と京都』日本史研究会編 2001 年

山田邦和「伏見城とその城下町の復元」『豊臣秀吉と京都』日本史研究会編 2001 年

図１　第３期伏見城城下町の復元図（山田 2001 第９図に加筆）

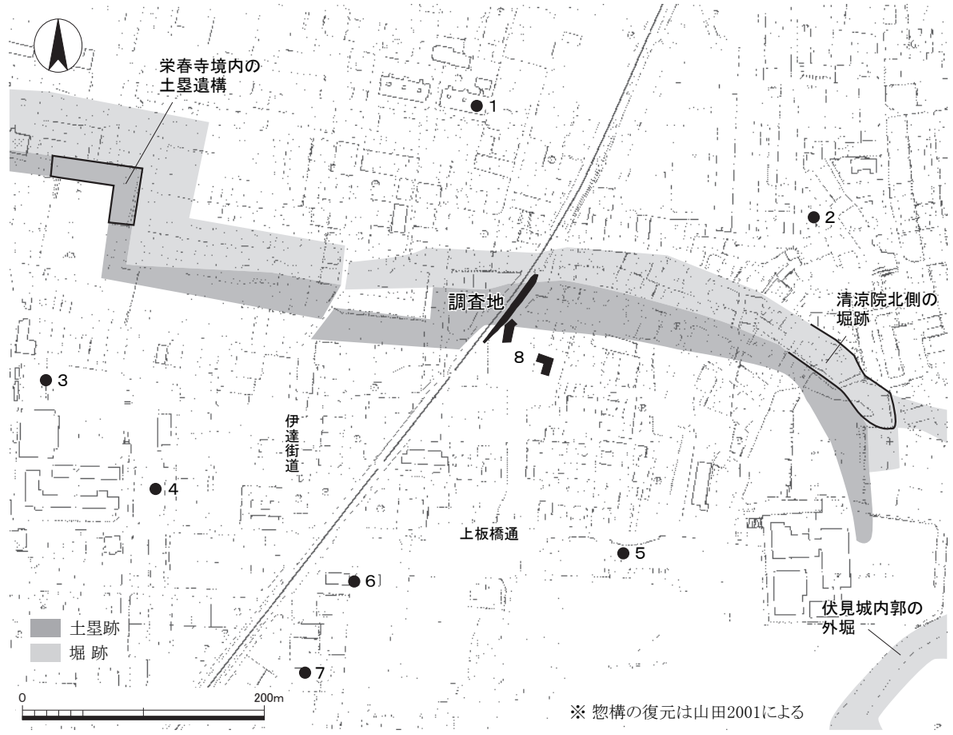

図２　調査２ 位置図（1:5000、中谷 2017　図５を転載）

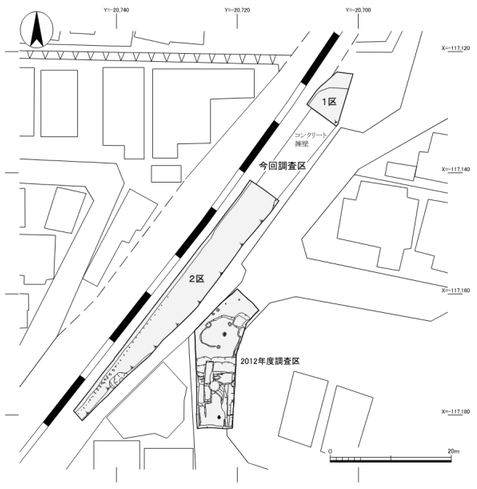

図３　調査２ 調査区配置図（1:1000、
中谷 2017 図２を転載）

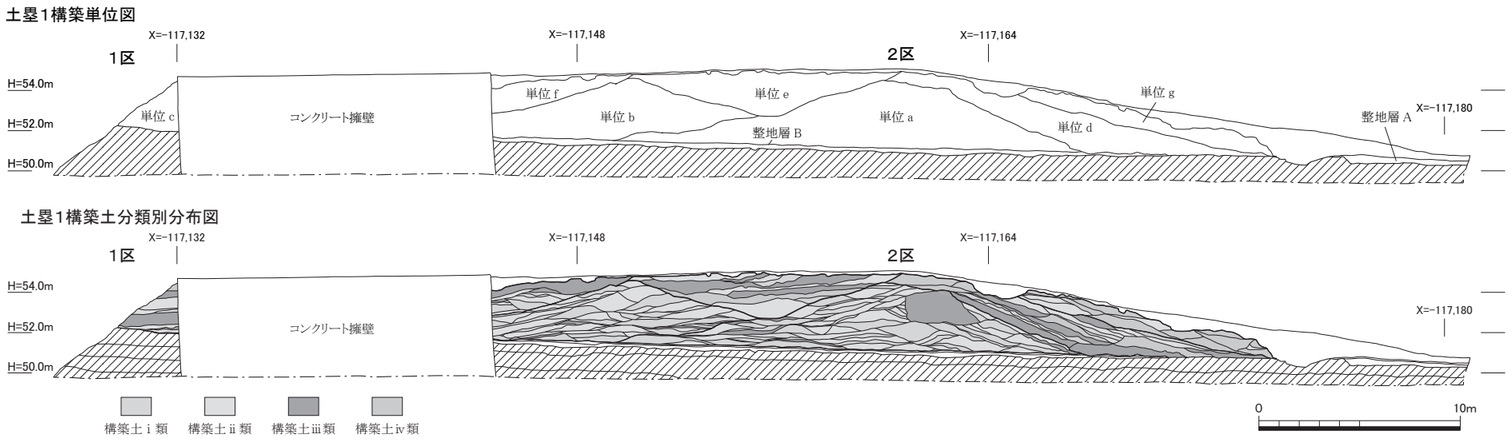

図４　調査２ 土塁１断面図（中谷 2017　図版１を転載）

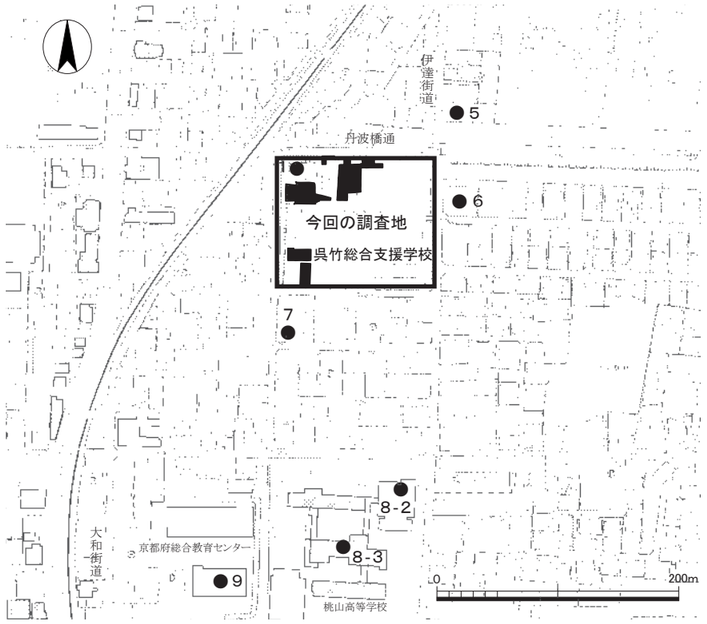

図5　調査3　位置図　（1：5000、松吉 2021　図１に加筆）

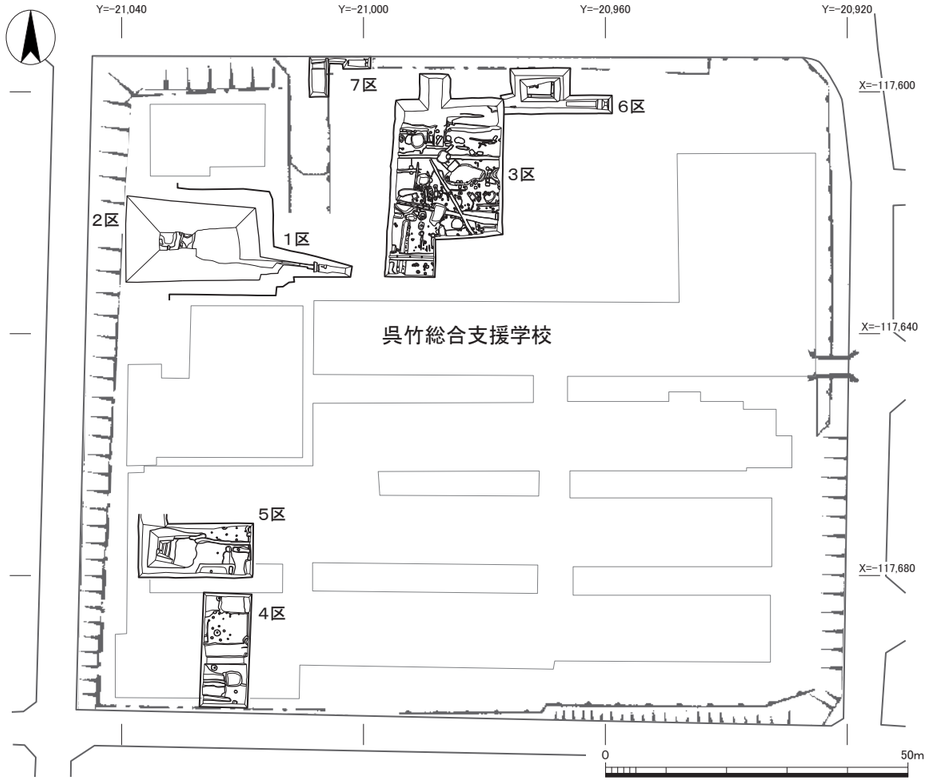

図6　調査3　調査区配置図　（1：1000、松吉 2021　図２に加筆）

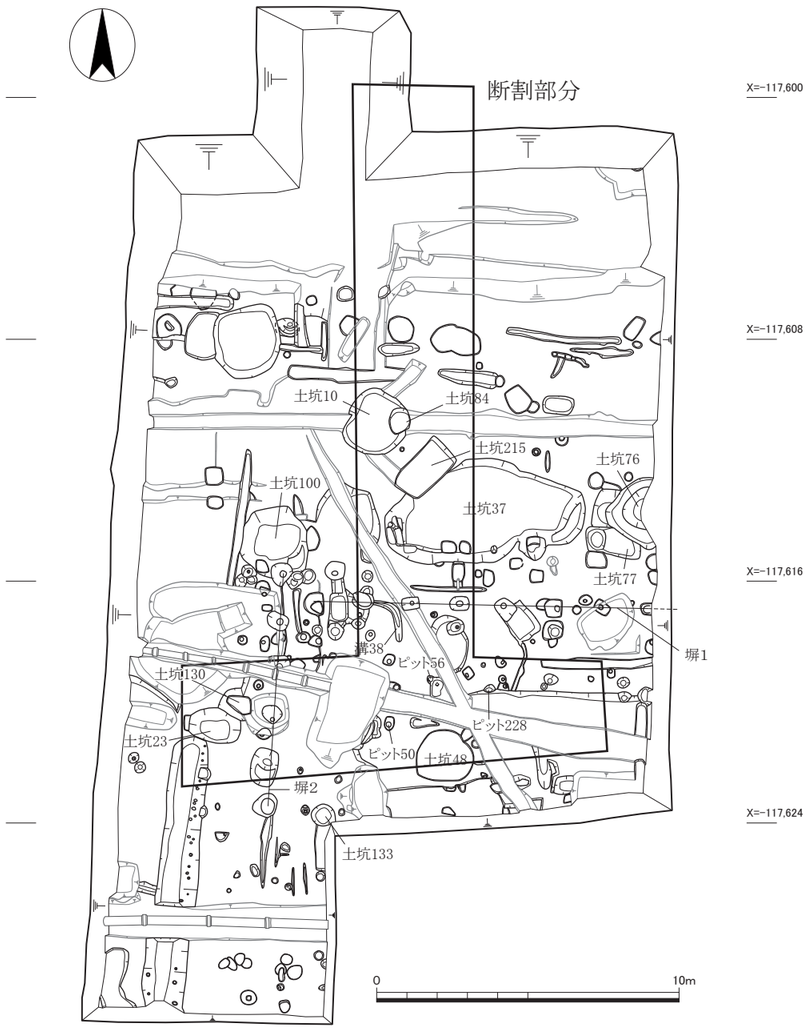

図7　調査3　3区平面図　（1：200、松吉 2021　図版６に加筆）

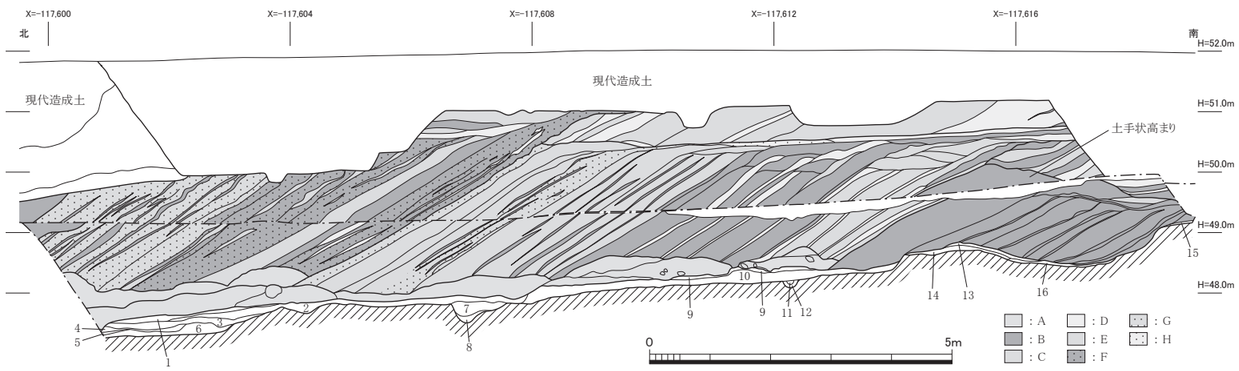

図8　調査3　3区断割東壁断面図　（1：100、松吉 2021　図版７を一部改変）

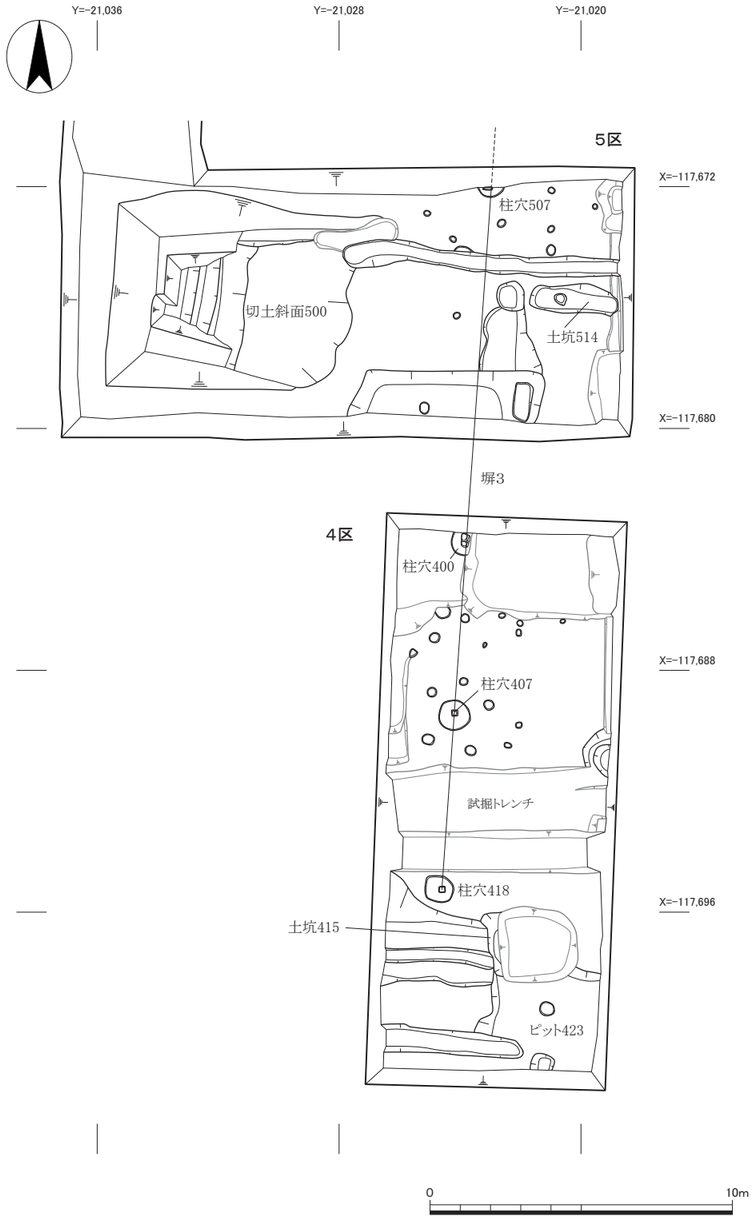

図9　調査3　4・5区平面図（1：200、松吉 2021　図版 16 を転載）

写真3　調査3　3区断割全景（南西から）

写真4　調査3　5区切土斜面 500（北西から）

表 1　伏見城略年表

年号	西暦	できごと
天正 13	1585	豊臣秀吉　関白となる
天正 14	1586	聚楽第　造営開始
		秀吉　太政大臣となる
天正 15	1587	秀吉　大政所・北政所とともに大坂城から聚楽第へ移る
天正 18	1590	秀吉　天下統一
天正 19	1591	秀吉　秀次を養子にする、関白を秀次に譲る
文禄元	1592	文禄の役
		指月に隠居所　造営開始
文禄2	1593	8月　拾　誕生
		9月　秀吉　大坂から伏見へ移る
文禄3	1594	指月の隠居所　を城郭へ、惣構・城下町の整備
		淀城解体、伏見へ移築
		秀吉　指月城へ移る
文禄4	1595	秀次　自害
		聚楽第破却、伏見へ移築
慶長元	1596	慶長の大地震、直後に木幡山（伏見山）に伏見城再建
慶長2	1597	慶長の役
慶長3	1598	秀吉　伏見城で死去
慶長4	1599	豊臣秀頼　大坂城へ移る
		徳川家康　向島城から伏見城へ入る
慶長5	1600	石田三成により伏見城落城
		関ヶ原の戦い
慶長6	1601	家康　伏見城を復旧、大坂城から伏見城へ移る
慶長 19	1614	大坂冬の陣
慶長 20	1615	大坂夏の陣、秀頼・淀君　自害
元和9	1623	伏見城破却